

パフォーミングアーツ学習

日本では、「芸術」は「分野」でくくられているから未経験者は受け入れてもらえない、興味はあっても特別な人たちの世界だからというのが一般的な認識ではないでしょうか？ そんな中で今から10年前に教育や地域の幅広い分野で「体験を重視しよう」という気風が高まり、ダンサーの意識改革を進めるためにカンパニー内部に【コミュニケーション部門】を設置しました。

年齢や性別、言葉や文化の違いに関係なく、
一度一緒に踊るとあっという間に仲良くなってしまうダンスの不思議。
人と関わったり、その人のことを知る上で、
ダンスはこの上ないコミュニケーション方法。

そんなダンスの良い部分を、誰でも体験できるプログラムとカリキュラムの土台は、
パフォーミングアーツ学習です。
従来のダンスの授業や専門的なダンスのレッスンとの決定的な違いは、誰でもできることです。

海外では幼児から大学までの幅広い教育過程で
パフォーミングアーツ学習が盛んに取り入れられています。
文化芸術を人間的な活力を生み出す原動力とし、
お互いの違いを認め合い、尊重し合う、人として最も大切なことを教育過程から学ばせよう！
多様な民族の共存する国で「それが必要だ!」という考えや実行する努力が、
盛んに進められて来た理由は、想像に難くありません。
多角的に物事を考えるプロセスの大切さ。
【コミュニケーション部門】ではパフォーミングアーツ学習の専門的な指導員を養成しています。

パフォーマンスアート学習・指導概要

からだを使ったコミュニケーションの場を創る(あるいは：成立する)上で、最も重要なことは、対象者に必要な情報をきちんと提供することです。指導全体をチームで行い、役割分担は大きく4つに分かれます。

指導構成員			
No,	役目	内容	人数・配置
1,	モデレーター	進行役	1名/舞台上
2,	モデルロール	対象者が模倣する見本	2名/舞台上
3,	フロアスタッフ	見回りサポート	1～複数名/フロアー
4,	音響	オペレーター	1名/軽量の機材有り

1,～4,の役割で情報提供の内容も異なります。各自役割をきちんと把握し、対象者がしっかりと情報をキャッチできるよう工夫・支援がかかせません。学校対象/小学生(低学年、高学年)・中学生・特別支援学校・聾学校・盲学校、生徒数の多い学校・少人数の学校。地域対象/子供・大人等、オリエンテーション(実践研修)を通じてさまざまな違いに寄り添ったカリキュラムを習得してもらいます。

指導構成員2,モデルロール(対象者が模倣する見本)を、最終的に対象者に引き継ぐ(バトンタッチ)ところがプログラムの最大の特徴。対象者自ら主役となって達成感を生み出すのが狙い。

指導員には、対象者の自主性を引き出し、主役になってもらうまでの経験をサポート・支援する役割に徹してもらいます。

モデルロールの引き継ぎ
学校対象：指導員→学校の先生→児童・生徒
地域対象：次々に参加者に引き継ぎ